

## 旭丘理科特別講座「京都大学へいこう！」報告

目的： 先端科学研究に触れることで、科学への探究心を高める。

日時： 令和 元年 10月1日（火）〈学校祭代休日〉

場所： 京都大学「理学部」及び「iPS細胞研究所」

日程： 午前 10時 京都大学 理学部 前 集合（予定）

午前 京都大学理学部にて講演およびラボ見学

講師 京都大学 理学部 高橋 淑子 教授

午後 iPS細胞研究所見学及びiPS細胞についての講義

講師 iPS細胞研究所 竹中菜々 研究員（旭丘56期）

ウイルス・再生医科学研究所 田宮寛之 医師（旭丘54期）

今年度は非常に応募者が多く抽選で30名の生徒が参加した。発牛学者としても著名な高橋先生は京都大学で「生物学のフロンティア」という生物学者のリレー講義を担当されている。本校卒業生も多く受講している。

午前 理学部

高橋淑子先生は研究者としての面白さをご自身の経験を交えながら、「発牛学」の講義をされた。

体節のでき方を実験結果から何が言えるか考え、その後、ラボ見学させていただき「ニワトリの胚」の1日目、4日目の胚を顕微鏡で観察した。すると日を追う毎に体節ができていくことを確認することができた。生徒からは多くの質問があり、研究員の方と話もできた。



午後 iPS細胞研究所

竹中先生からはご自身の進路決定を織り交ぜながら、再生医療研究者になったいきさつを伺った。また、iPS細胞についてと最近の応用例、さらにiPS細胞を使ってこれから期待できることをについて話された。

田宮寛之先生からは睡眠時間や体内時計の遺伝子の話があった。SCN（視交叉上核）の移植により朝型、夜型などの行動パターンが変化することやSCNの同期を抑える薬の開発等のお話があった。その後、研究所内を見学させていただいた。

